

就任あいさつ

全国にこころのネットワークを

副代表 小林 和明

「小さな親切」運動に出会ってから、はや54年が経過いたしました。「小さな親切」の精神が、「人を大切に」人生を生き抜く精神に繋がり、学生時代、社会人になってから現在に至るまで、私の精神はいつも変わることはありませんでした。

2年前に理事を務めてから、日本各地の組織を訪問させて頂き、様々な出会いがあり、いろいろな事実にも遭遇し、沢山の知識と感動を頂きました。

今、社会は家族のあり方を問う時期にあります。この問題を意識して「タテ、ヨコ、ナナメ、前後左右、そして円を描く」勢いで、「『小さな親切』のこころのネットワーク」を全国に張り巡らせ、運動の推進を図っていききたいと思います。



生きている者のお返しは奉仕

副代表 森本 弘道

この度は思いもよらないことでありましたが、鈴木代表からご指名をいただき理事会にてご承認をいただきましたので、若干逡巡はいたしました但し謹んでお引き受けいたしました。

91歳で他界いたしました私の父は、「人間は誰しも自分の力で生きていけると思いがちだが大間違い、目に見えない大きな力で生かされているのだ。生きている者のお返しは奉仕だ」と、口が酸っぱくなるほどいい続けておりました。

私は相も変わらぬ浅学非才の身でございますが、素晴らしい行動力と英知をお持ちの鈴木代表と小林さんと共に、全身全霊当運動発展のため努力をして参ります。



「共感する脳」を育てましょう

理事 栗田 正

この度、理事を拝命した栗田と申します。情報誌の「酔いどれ脳科学」コーナーで、日本酒を飲みながら日常生活で遭遇する様々な事柄について、脳科学的なウンチクを語っている医者と言えおわかりになるかと思えます。

近年、脳科学の著しい発達に伴い、ヒトの様々な感情、例えば苦しむ人を見た際にその痛みを共感するなど、が脳の特定の場所から発生することが分かってきました。この「共感する脳」は幼少期から思春期に形成されるもので、当運動はこうした脳の発達を促す上で大切な役割を果たすと思います。

これからも脳科学の立場から、是非協力させて頂きたく思います。



運動の歴史と活動に感銘

理事 藤井 基

長年お世話になっているクライアントのご紹介で、初めて「小さな親切」運動の存在を知りましたが、その歴史、活動の広がり等を知り、とても感銘を受けました。

ワールドカップの試合終了後に、ゴミを拾う日本人サポーターに対する称賛の声が世界中に広がりましたが、「小さな親切」運動が日本だけではなく、世界に広がりつつあるのを感じます。

このような歴史ある公益社団法人の理事として、自分にどんなことができるか分かりませんが、まずは、身の回りで「小さな親切」を実践していくしかない、と自分に言い聞かせています。どうぞよろしくお願いいたします。

